

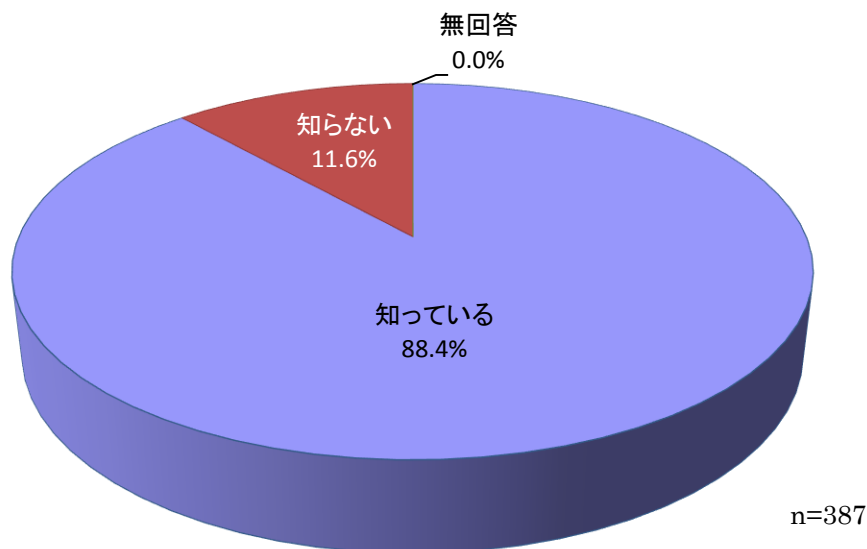
## 4. 住宅用火災警報器について

### (1) 「住宅用火災警報器」設置義務の認知度

◇ 「知っている」が9割弱

問1	1	全ての住宅等に「住宅用火災警報器」の設置が義務づけられたことを知っていますか。 ※市内のすべての住宅（一般住宅、共同住宅、店舗併用住宅等）に平成21年6月1日から設置が必要です。 (○は1つ)	n=387
	1	知っている	88.4%
	2	知らない (無回答)	11.6% 0.0%

<図IV-3-15>全体



全ての住宅等に住宅用火災警報器の設置が義務づけられたことを知っているかについては、「知っている」が88.4%で、認知度の高さが見受けられる。(図IV-3-15)

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<男性/20歳代>の50.0%と<女性/20歳代>61.5%を除く年代で8割を超えている。(図IV-3-16)

居住地域別で見ると、「知っている」は<北部地区>で91.7%と最も高くなっているが、全ての地域で8割を超えている。(図IV-3-16)

<図IV-3-16>性別・年齢別/居住地域別

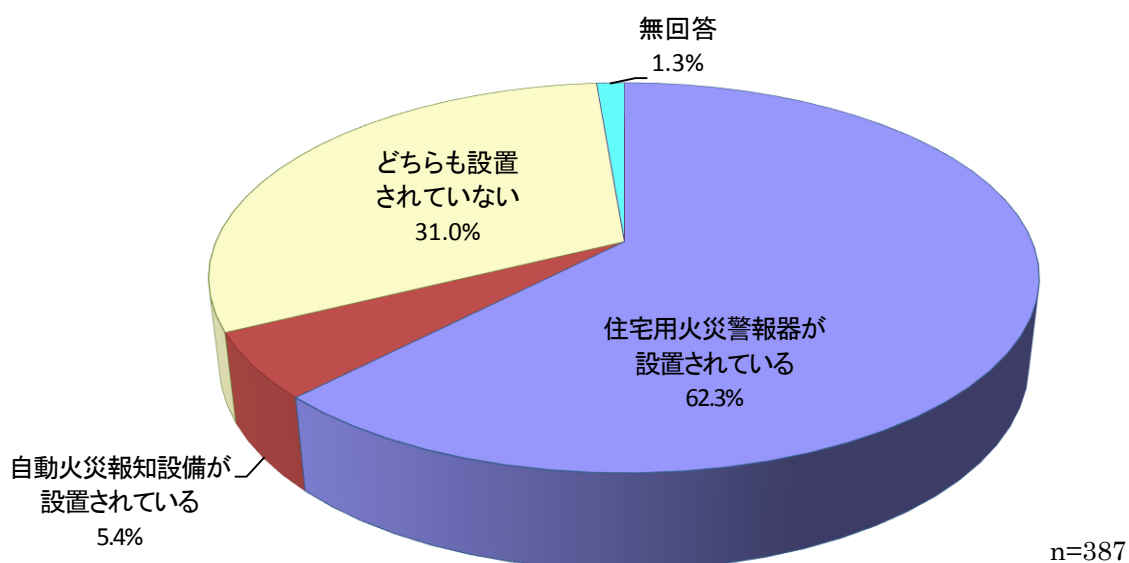


(2) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

◇ 【「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」が設置されている（計）】が7割弱

問12	現在、自宅に「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」が設置されていますか。	(○は1つ)
		n=387
1	住宅用火災警報器が設置されている	62.3%
2	自動火災報知設備が設置されている	5.4%
3	どちらも設置されていない	31.0%
	(無回答)	1.3%

<図IV-3-17>全体

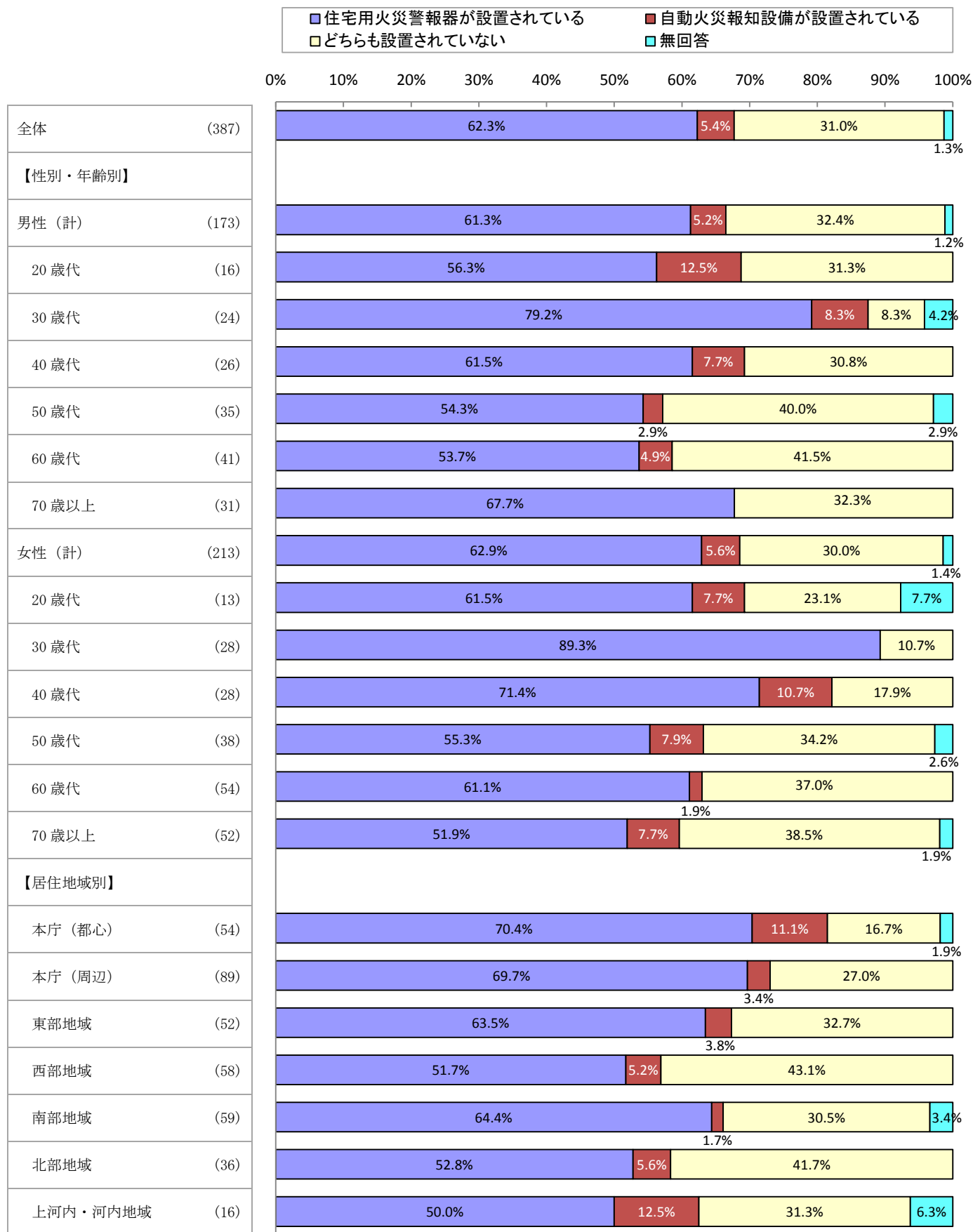


自宅への住宅用火災警報器または自動火災報知設備が設置されているかについては、「住宅用火災警報器が設置されている」62.3%と「自動火災報知設備が設置されている」5.4%を合わせると7割弱であった。(図IV-3-17)

性別・年齢別でみると、「住宅用火災警報器が設置されている」は<女性/30歳代>の89.3%が最も高く、次いで<男性/30歳代>が79.2%であった。「自動火災報知設備が設置されている」は<男性/20歳代>の12.5%が最も高かった。一方、「どちらも設置されていない」は<男性/60歳代>の41.5%が最も高かった。(図IV-3-18)

居住地域別でみると、「住宅用火災警報器が設置されている」は全ての地域で5割を超えており、<本庁(都心)>では70.4%と最も高かった。「自動火災報知設備が設置されている」は<上河内・河内地域>が12.5%、次いで、<本庁(都心)>が11.1%であった。一方、「どちらも設置されていない」は<西部地域>の43.1%が最も高かった。(図IV-3-18)

<図IV-3-18>性別・年齢別/居住地域別



(2-1) 「住宅用火災警報器等」を設置していない理由

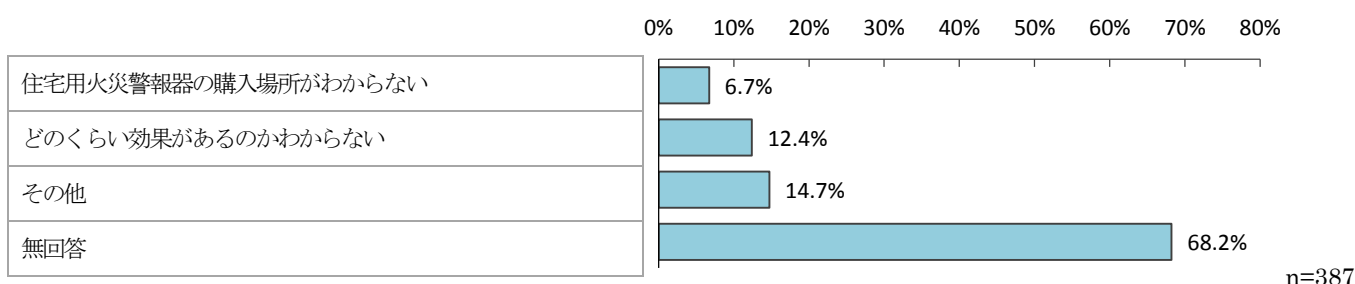
◇ 「どのくらい効果があるのかわからない」が1割強

(問12で『住宅用火災警報器等』を設置していない)と答えた人に)

問13 「住宅用火災警報器等」を設置していない理由は何ですか。 (○はいくつでも)

	n=387
1 住宅用火災警報器の購入場所がわからない	6.7%
2 どのくらい効果があるのかわからない	12.4%
3 その他	14.7%
(無回答)	68.2%

<図IV-3-19>全体



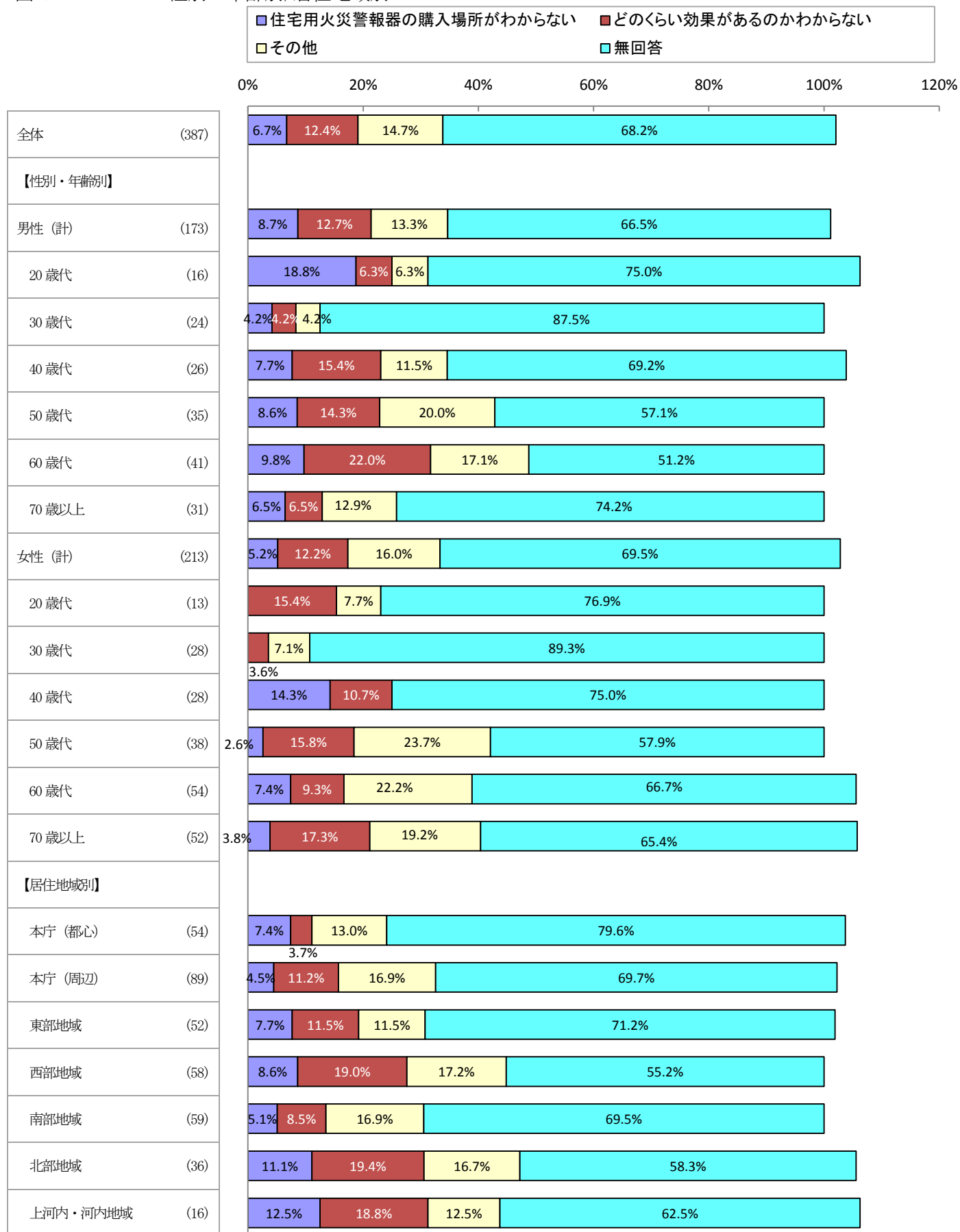
住宅用火災警報器等を設置していない理由については、「どのくらい効果があるのかわからない」が12.4%、「住宅用火災警報器の購入場所がわからない」が6.7%であった。

その他としては、「費用がかかる」など消極的な理由が多かった。(図IV-3-19)

性別・年齢別でみると、「どのくらい効果があるのかわからない」は<男性/60歳代>の22.0%が最も高く、次いで、<女性/70歳以上>が17.3%であった。(図IV-3-20)

居住地域別でみると、「どのくらい効果があるのかわからない」は<北部地域>の19.4%が最も高く、次いで、<西部地域>の19.0%であった。(図IV-3-20)

<図IV-3-20>性別・年齢別/居住地域別

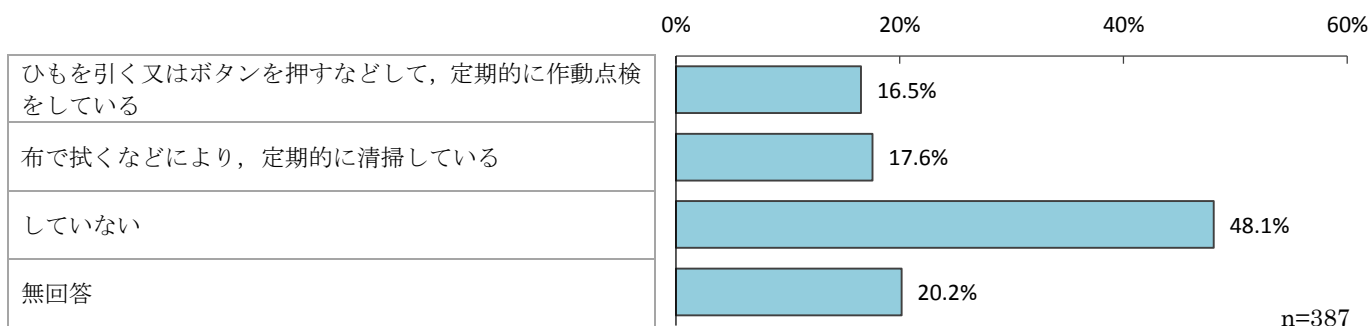


(2-2) 「住宅用火災警報器等」の点検等実施状況

◇ 「定期的に作動点検・清掃している」が3割半ば

問14	(問12で『住宅用火災警報器等』を設置している」と答えた人に) 「住宅用火災警報器等」の点検等を実施していますか。」	(〇はいくつでも) n=387
1	ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている ※最新機種ของ多くは、電池寿命10年です。	16.5%
2	布で拭くなどにより、定期的に清掃している ※ほこりがつくと、火災を感知しにくくなります。	17.6%
3	していない(理由: )	48.1%
	(無回答)	20.2%

<図IV-3-21>全体



住宅用火災警報器等の点検等の実施については、「していない」が48.1%で最も高く、「布で拭くなどにより、定期的に清掃している」が17.6%、次いで「ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている」が16.5%であった。

実施していない理由としては、「点検の方法が分からない」や「高所に取り付けてあるため届かない」などがあった。(図IV-3-21)

性別・年齢別で見ると、「ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている」は<男性/20歳代>が37.5%と最も高く、次いで<男性/70歳以上>が35.5%、<女性/60歳代>が24.1%であった。「布で拭くなどにより、定期的に清掃している」は<女性/40歳代>の32.1%が最も高かった。(図IV-3-22)

居住地域別で見ると、「ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている」は<南部地域>が23.7%と最も高く、「布で拭くなどにより、定期的に清掃している」は<東部地域>が28.8%と最も高かった。(図IV-3-22)

<図IV-3-22>性別・年齢別/居住地域別

